

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

城 和 貴^{†1}

今年度第3回目のTOMの発刊です。今年度も年間3回の発刊を計画しており、昨年度同様、年度末ぎりぎりの刊行になりました。編集している方は何年度の発刊になるのかなどはあまり神経を使っていなかったのですが、さすがに2年続けて年度末ぎりぎりに発刊するのは申し分なく思います。そこでTOMの今までの年度ごとの発刊月を調べてみました。

トランザクション制度がスタートした

1998年度は1999年2月に1回、
1999年度は12月に1回、
2000年度は11月に1回、
2001年度は5月と12月の2回、
2002年度は9月と11月の2回、
2003年度は5月、11月、2月の3回、
2004年度は2005年1月に1回、
2005年度は6月、12月、2月の3回、
2006年度は10月、2月、3月の3回、
2007年度は10月、12月と今回の3回です。

最近3年間は年3回の発刊が定着してきたようですが、全体的に発刊スケジュールが年度末近くになっています。この原因はMPSで毎年6月に実施している国際会議(PDPTA)との共済にあります。MPSの研究会のスケジュールは年度第1回目(5月)に主査/幹事の近辺、第2回目にラスベガス(6月か7月)、第3回目(9月)は地方、第4回目(11月か12月)は東京、第5回目(3月)は温泉となっており、第2回目はTOMの投稿募集をしておりません。そういう事情があって、年3回の発刊が均等にしにくいのですが、来年度は事情が違ってくると思います。

最近4年間のTOMへの投稿件数は、
2004年度51件(うち特集号9件)、
2005年度73件(うち特集号29件)、
2006年度96件(うち特集号27件)、
2007年度82件(うち特集号14件)

となっています。TOM20には、のちほど報告しますように、22件もの投稿があったMPS67からの掲載が1件しかなく、21件の投稿があるMPS68の分も含めると、来年度こそは夏が来る前に年度1回目の発刊が可能かと思います。

TOM編集委員会では、研究会に連動した投稿論文のIDには、 $MPSxx-yy-z$ という表記を使います。 xx は年度、 yy は研究会の通算開催回数、 z はその回に投稿されたIDでアルファベットの大きい文字を使います。たとえばMPS07-66-Aは2007年度に開催された第66回MPS研究会に連動して投稿された論文番号Aという意味になります。このIDの規則を考えたときには想定すらしていなかったことなのですが、2007年12月に開催されたMPS67では22件もの研究会連動投稿があり、22番目の論文のIDはMPS07-66-Vでした。僕はこのときアルファベットは26種類しかないということに改めて気づきました。近い将来、26件以上の研究会連動投稿が来たらどうしようと。

TOM20では、2007年5月のMPS64(大阪)から2編、2007年9月のMPS66(名古屋)から10編、2007年12月のMPS67(東京)から1編のオリジナル論文と、2007年度研究会非連動投稿から1編の事例紹介論文の合計14編を掲載しています。TOM20に関する採録論文数/投稿論文数は14/20で採択率は70.0%でした。これはTOM創刊以来最高の採択率で、TOM20の大部分を占めているMPS66に連動した投稿論文の質が高かったからです。悪いときには50%を切る場合もあることを考えると、特筆するべきことだと思います。

今号の採録論文14編の担当編集委員は、池田大輔、上田修功、北 栄輔、小林 聡、佐藤彰洋、品野勇治、高野茂、中島智晴、馬場謙介、堀田一弘、古瀬慶博、宮崎浩一、山崎浩一となっています。

配布部数につきましては、900部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらをご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることができますので、MPS研究会および論文誌TOMに関しては、そちらをご参照くださいますようお願い申し上げます。

^{†1} 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
奈良女子大学